



ちきゅう 地球はどうしてまるいの

うちゅう 宇宙のガスやちりからびわく星ができた

いま から50億年ぐらい前、銀河系の中に、ガスやちりでできた、星雲がただよっていました。このガスやちりが、中心に引きつけられて、円ばんのように回転を始め、中心に太陽ができました。

太陽は、円ばんのように集まっていたガスやちりを、遠くにふき飛ばしました。このガスやちりが、太陽の周りを回りながら集まり、びわく星とよばれる、小さなわく星がたくさんできました。

かいてん 回転しながら丸くなった

ちきゅうは、いまから約46億年前、びわく星の、たび重なるしょうとつによって、生まれたのです。

びわく星は、おたがいにしょうとつして、くっつきあい、こわれたりしながら回転し、だんだん大きくなって、地球ができました。地球ができるもともになった、びわく星も回転していたので、地球は回転しながら、丸くなったのです。

きゅうけい 球形がいちばん安定している

うちゅうにガスやちりが集まって、中心に星ができるとき、さいころ形や、三角形のテントのような形にはなりません。必ず、球形になります。それは、球形が表面のどの位置でも、引力が一定になるので、もっとも安定しているのです。（監修・国司 真）

